

平成29年度 まちづくり懇談会（タウンミーティング）議事録

会議名	川島町交通安全母の会連合会役員とのまちづくり懇談会 （タウンミーティング形式による）
開催日時	平成30年2月5日（月）午前10時00分～11時20分
開催場所	川島町役場 中会議室
公開・非公開の別	公開 ・ 非公開 ・ 一部公開
非公開の理由 （非公開の場合のみ）	個人を特定する情報については非公開とする ※「まちづくり懇談会実施要領」 10 懇談内容の公表 町民に対して積極的な情報提供を行う観点から、懇談会における懇談内容は、団体名や個人名を特定しない形式で、町広報紙や町ホームページで公開する。
議題	(1) 川島町の交通安全について 子どもの交通安全教育、高齢者の交通事故防止対策 など (2) 川島町の教育について 小学校の統合、少人数クラスについて など
出席者	町：町長、町民生活課（小澤課長、山崎麻美主事）、教育総務課（石川課長）、秘書室（柴生田） 住民：川島町交通安全母の会連合会役員のうち9名
配布資料	次第
審議等の内容又は概要 1 開会 2 タウンミーティング 3 閉会	
質疑応答・意見提案 ※フリートーク形式で実施 町長：町長の職を担うようになって3年が経過した。できるだけ地域の団体等の声を聞くようにと努めてきたが、各種団体の長は自分と同年代の人が多く、そういった方々の意見だけでは、偏りがあるかと心配なときもあり、ぜひ、若い人たちの意見も聞きたいと感じている。当町も例外なく少子高齢化となっている。町が生き残りを図るため、インター周辺開発に力を入れて企業からの税収を増やし、町に活かしたいと考えている。また川島町の特徴とも言える農地については、農業後継者が減少しているので、農地集約を進めていきたいと考えている。将来的に、豊かともまではいかないが、心配なく楽しく過ごせるようにしたい。町が少しでも良くなるよう、県内接遇ナンバーワンを目指しているなど、皆さんには少しでも雰囲気が変わったと感じてもらっているのではないだろうか。今日は忌憚のない意見を聞かせてもらいたいと思う。	

団体：私の地区は、通学路のうち道幅が狭く暗い所がある。しかし町外への抜け道として通行する車が多く、子どもたちが通学するのに危険だと感じている。以前から町に対して「スクールゾーンにしてほしい」と要望しているが、なかなかかなわない状況。小学校が統合され、子どもたちがバス通学になれば通学時の安全は確保されると思ったが、バス停等まで行くのに危険であることは変わらない。せめて注意喚起の看板等を設置してもらえないか。

町長：スクールゾーンの認定は当町で対応できるものではないので、「やります」と即答できないが、看板の設置は可能かと思う。対応を検討したい。

団体：雨天のとき、側溝が土砂等で埋まり、余り上手く排水されない。特に台風などが起こると浸水状態となる。地域から町に頼んだら排水溝を造ってくれたが、問題のある所ではない場所に造られてしまい、問題解決していない。

町長：確かに子どもの通学時の安全確保は大切だと思う。ただ、排水溝の掃除まですべて役場で行うのは正直きびしい。地域でもぜひ協力してほしい。

団体：国道から町内に向かう、とある道は車の通りが多い。グリーンベルトを設置してもらっているが、気にしないのか、車の往来は依然として多い。自分たちでも立哨指導等行っているが、スピードを落とさず危ない思いをしている。警察の立哨をぜひお願いしたい。警察官が週に1回でも立ってくれば、通行車は警戒するようになるのではないか。

団体：私の地区にも通学時危険箇所があるが、町に頼んだら看板を作ってくれた。ところで話題は変わるが、町に駅ができないものか。子育て世代からすると、駅があればそこに住もうと思う。

町長：町でもいろいろ検討は図ったが、さすがに難しい。その他の交通施策もいろいろ検討し、若葉駅からのバス路線を役場まで延伸した。また、今は高速バスのハブターミナルと作りたいと思っている。

団体：以前は巡回バスが通っていたが、今はない。巡回バスがあれば、子どもたちが町の施設を利用するのに自力で行けるが、今は保護者が送り迎えをしている状況。

町長：確かに以前は巡回バスを通していたが、実際にはほとんど人が乗っていない状況。逆に町民の一部からは、税金の無駄だとのこと指摘もあったので、もっと利便性の高い方法として、かわみんタクシーを始めた。高齢者には評判の制度。交通の便として、かわみんハウスへ行く手段がないとの意見を聞いている。そのような中、現在運行しているやすらぎの郷行きの巡回バスをかわみんタクシーのようなタクシー乗り合わせ方式に変え、かわみんハウス行きの交通の便を何らか考えないとならないと思っている。

団体：スポーツ少年団では防災基地を使わせてもらっているが、県道の一部に歩道がなく、また入口は特別支援学校側しか入れないので、子どもたちは非常に幅の狭い砂利道を自転車通っている。本当に狭くてとても危険だと思う。きれいに舗装などしてもらえないか。

団体：延長保育については18時30分以降から料金が加算される仕組みだが、母親たちはみんな時間に追われながら迎えに行っている。少額でも重なると大き

な負担なので、加算しないでほしい。せめて買い物に寄ってからゆとりをもって迎えに行けるくらいの制度にしてほしい。

町長：行政サービスはどこまで対応すればよいのかといった疑問がある。中山・伊草地区以外の学童保育を始めるとき、何度もリサーチしたが、皆さんの意向は「学童があっても預けない」という回答だったが、いざ事業を始めてみると、利用者はどんどん増えたという事例もある。一方で、やってほしいという要望の元に始めた事業でも、利用者はほとんどいないという事業もある。お金がたくさんあればどこまでも要望に応えることができるだろうが、なかなかそうもいかないのが現実。更なるジレンマは、マンパワー不足。職員数にも限りはあり、何でも役場がやってあげることにはできず、地域の民生委員などに協力してもらうなどして成り立つ仕組みなどもある。そういった中では、コミュニティの弱体化も気になる。自分でできることは自分で、地域でできることは地域で担ってもらいたいと思っている。

団体：保育園の送迎スペースや通路が狭い。園内ルールとして通行方向を一方にするなどあるが、守らない人も多い。柵を取り払い、保育園前のアパートの空き地を送迎スペースや駐車スペースなどに広げてほしい。道路の反対側に駐車場を設けたというが、道路を横断するのは危険だし、使い勝手が悪い。

町長：保育園の駐車スペースについては、アパートの空き地を使わせてもらえることとなった。保育園の柵も取り払う予定。これから整備するのでもう少し待つてほしい。

団体：統合後の通学路についてだが、今まで通っていないところを通学路とすることとなるよう。しかし歩道がなくて危険だと思う。

(町)：2キロ未満圏内は徒歩通学ということとしたが、危険性があるのはおっしゃるとおり。そのような箇所は他にもあるだろうから、地域で取りまとめて具体的な報告を上げてほしい。

団体：子どもが自転車で遊びに出かけるにあたり、交通量が多く道路を横断できない所があるので、横断歩道を設置してほしい。歩道橋はあるが、自転車では歩道橋を通れない。

町長：おっしゃるとおり。しかし横断歩道は町が設置できず、警察の許可が必要。町から多所に横断歩道や信号機の設置を要望しているが、なかなか許可がおりなくて苦労している。

団体：警察がその場所に看板を立ててくれたようだが、正直、気づきにくくて余り意味がないと思う。

団体：中山スクールガードという地域での組織ができ、登下校時の立哨などしてくれている。とても感謝している。

町長：私もそのような地域の活動には大変感謝をしている。そのような努力に少しでも報いたいと、ベストなどの支度は町で整えた。もし他にも地域でそのような活動をしてくれるのであれば、ベストなどは提供するのでぜひ言ってほしい。

団体：かわべえメールなどで不審者情報を受け取るが、参加者皆さんの地域ではどの

ような対応を行っているのか。

町長：警察が巡回するなどの対応はしているようだが、町としては状況に応じて青色パトロール車で巡回するくらい。これも全情報に対してではない。

団体：学校の先生が外に出て下校時の見守りなどしてくれることがある。私の地域では、保護者が家の前を出迎えるくらい。

(町)：情報提供は密に行うようにしており、学校の教職員も見守り等行うようにしているが、これまで情報提供した不審者情報では、例えば一斉下校や組織だった巡回行動など大がかりな対応は行っていない。不審者が出たなどの状況では、地域の防犯パトロール団体に連絡し、見守りを行ってもらっている。

町長：かわべえメールの配信について、町は積極的に行うようにしている。中には「そんなにたくさん流さないでほしい」といったご意見もあるが、やはり情報提供は大事だと思っているので、特に防災や防犯の情報は積極的に配信している。

団体：大雨のときの情報提供は、様子が把握できて良かった。

町長：茨城県で鬼怒川堤防が決壊したとき、地域では防災無線の声はまったく聞こえなかったそう。一方、メール配信であれば確実に情報を届けられる。

団体：ところで、先日わが家の第3子をインフルエンザの予防接種に連れて行った。かかりつけが町外なのでそちらへ行ったが、医師から「インフルエンザ予防接種の補助金を出すのは川島町くらいだ。他では受験生がインフルエンザ予防接種を受ける際の補助金という事例は聞いているが、子どもへの補助は余りきかない。川島町はとても良い制度を実施している。」と言われ、うれしかった。

団体：学校近隣のある地域で、田んぼ管理ができない土地を町が買い取り、学校来校保護者用の駐車場にするという話を聞いているが、本当か。

町長：そのような話が地域で広まっているという話は聞くが、実際には駐車場にすることはできない。農地を他用途に転用するには、結構厳しい条件や審査があり、そう簡単にはできない。

団体：中学校のグラウンドが狭い。サッカー部ではコート一面を取ることができず、練習試合などでは他校へ出向くしかできない。スポーツ推進のまちを掲げているのであれば、そういったスポーツ施設などももっと整備してほしい。

(町)：確かに狭いと認識している。ただそういった要望があるということは今初めて知った。

団体：今、小学校の統合が進められており、また小中一貫教育という話も聞いているが、中学校も統合の必要性があるのではないか。生徒数が多ければ部活動も多彩となり、子どもたちは「選ぶ」ことができるようになるのではないか。

町長：部活動の種類が増えることとは少し違うかもしれない。部活動指導は教職員に大きな負担となっており、なかなか難しい。町では部活動指導に外部講師を検討しているところ。一方で中学校の統合となると、その議論についてはむしろ10年、20年は先だと思う。その前に子どもの数を減らさない対策も行っていきたい。

(町) : 小学校については、あと1回は統合することとなると思う。今現在、ゼロ歳児は53人と非常に少ないことを思うと、再び統合を図ることは必要となると思う。

町長 : 人口減少というが、昔、川島町の人口は1万5000人くらいだった。その頃でも元気で活力のある町だったことを思うと、人口の少なさをそれほど悲観的に捉えることなく、活力のあるまちづくりはできると思う。

団体 : ある小学校では5年生の人数が少なく、実際には1クラス分しかいないが、2クラスにしてもらっている。来年度もぜひ2クラスのままとしてほしい。

町長 : 教職員の給料は埼玉県が支払っている。しかし、今の事例については、もう1人分の給料は町が補填して2クラス構成としている。来年度予算決定前ではあるが、来年度も2クラスとできるように考えてはいるところ。それだけ、町は子どもの教育に力を入れていることも知ってほしい。

(町) : 先日の学力テストにおいて、町の小学5年生算数ではさいたま市を除く県内市町村で1位だった。その他の教科も県内では割と好成績。

町長 : 子どもの学力向上には力を入れている。以前、町の学力テストの結果は低かった。埼玉県自体、全国順位では低いほうであり、その中でも川島町は低い順位だった。しかし川島町の子どもは資質的に学力が低いわけではないと感じていたので、中村教育長にいろいろ対応を図ってもらい、学力向上に取り組んでいる。とりわけ英語には力を入れている。私は、これからの将来、英語を身につけることは必須だと思っている。なので、川島町では英検受検料の補助金を出している。また専門講師の導入なども行っている。

(町) : 町内中学校も学力レベルが上がってきている。ただ、英語に関しては低い状況。英検受検料公費負担などは、県内でも当町くらいしか実施していない。また、英語ルームの実施など、学力向上には力を入れており、今後も様々な取組みを実施していきたいと考えている。